

広報 たか せ

第243号

令和7年8月1日
日田市高瀬公民館
館長 高田 義友
主事 荒倉 寿也
電話：24-2705
FAX：24-4075

高瀬女性セミナー

7月16日三花公民館と
合同で、日田リベルテにて
映画『アイミタガイ』を鑑
賞しました。人の思いやり
が巡って返ってくる感動的
な作品で、皆さん涙されて
いました。上映後は館長の
原さんによる解説もあり、
理解が深まりました。映画
館での鑑賞は久しぶりとい
う方も多く、良い機会にな
りました。参加者同士の感
想共有もあり、心温まるひ
とときとなりました。



映画鑑賞後には、三花公民館の
小野主事が感想を述べられ、「人と
人とのつながりや思いやりの大切
さを改めて感じました」と話され
ていました。参加者も深くうなず
いて聞き入っていました。

子育てサロン第4講

7月18日、第4回子育て
サロンが行われ、13組の親子
(子ども15人)が参加しまし
た。今回は歯のお話と手作り
うちわを制作し、お誕生日会
も行われました。誕生日の子
には心のこもったメッセージ
カードが贈られ、みんなで温
かくお祝いしました。福祉委
員さんと民生委員さんが用意
してくれたランチを囲み、和
やかな時間を過ごしました。



夏休み学び塾がスタート!!

夏の訪れとともに、今年も「夏休
み学び塾」が始まりました。参加し
たのは高瀬小学校の4〜6年生29
人。平成30年から続くこの学び塾
は、今年で8年目を迎える夏の恒
例行事です。初日は開講式からスタ
ートし、子どもたちは元気に参加。
持参した宿題を10日間で仕上げ
る計画を立て、静かな環境で集中して
取り組んでいます。仲間と励まし合
いながら学ぶ姿が見られました。ま
た、6名の先生方が毎日子どもた
ちに寄り添い、丁寧に指導してくだ
さっています。地域の子どもたちが
学びを深め、充実した夏休みを過ご
せるよう、今後もこの活動を続け
ていきます。



高瀬杉の子パトロール隊

定期総会を開催

7月18日、杉の子パトロール隊の定期総
会が開催され、令和6年度の活動報告と令
和7年度の計画、防犯協会の会計報告が行
われました。見守り活動に対して、中学校
の育友会代表から日ごろの感謝の言葉があ
りました。最後に、隈交番の酒井所長より交
通安全についての講話があり、参加者は防
犯・交通安全を新たにしていました。パトロ
ール隊の皆さん、今後も地域の安全見守り
活動、よろしく願います。



【高瀬の歴史コラム】第7回「高瀬の古代4～古墳時代～」

今回は、高瀬の古墳時代についてお話しします。

卑弥呼が活躍したといわれる弥生時代後期が終わり、農耕文化の発展とともに各地に出現した大小の集団や首長たちがヤマト政権に統一されていく時代に入ります。

3世紀後半にはヤマト地方で大型の墳墓(前方後円墳)が現れ、全国に広がっていきます。これらの墳墓(前方後円墳)はこれまでの単なる首長の墓というだけのものではなく、首長の権力を継承する儀礼の場、新しい首長に従うことを誓う場として利用されたと考えられます。

古墳時代は、前期(約AD250年～)、中期(約AD400年～)、後期(約AD500年～)に分類でき、日田地方は、大まかにいうと前期と中期は日田盆地周辺に多くの古墳が築かれています。前方後円墳は後期になって築かれるようになりました。日田最大級の前方後円墳は、朝日天神山古墳で6世紀中ごろに築かれています。注目される点は、多くの出土物の中に「三輪玉(みわだま)」といわれる水晶の玉があり、この水晶玉はヤマト政権の中でも大王(天皇に当たる人物)または、それに次ぐ有力者の刀の装飾に使われていたものと同様のものということです。当時の日田はヤマト王権との繋がりが大きかったといえます。

さらに言えば、古墳時代の日田は一つのクニとして成立し、ヤマト王権に組み込まれていたと思われます。大分県教育委員会の発掘調査書によると、欽明天皇(AD509-571)のころヤマト政権の政策として「比多国造(ひたくにのみやつこ)」がおかれ、その子孫の伝承が「豊後風土記」(AD730年ごろ)に残されています。

さて、この時代の高瀬はどうだったのでしょうか。

前期は、銭淵町の中溝と県道小畑日田線にまたがる銭淵遺跡(三世紀後半)で住居跡が確認されています。弥生時代から続く稲作に適した土地として、また、河川(三隈川)の災害が避けられる場所等の理由で多くの人々が暮らしていたことが想像できます。そして、この地区は、奈良時代に糸里(碁盤の目に区画された耕地)として整備されていきます。

中期には、銭淵遺跡周辺の首長の墳墓とおもわれる姫塚古墳(五世紀)がつくられています。これは前方後円墳ではなく円墳ですが出土物の中に鉄製の蛇行剣(だこうけん)があり、大分県では二例しかない珍しい剣です。祭祀に使われたものと考えられています。蛇行剣については、日本最大のものが古墳時代前期の終わりごろ、奈良県にある富雄丸山古墳から発掘されていることから、ヤマトとの何らかの関連があったと推測できます。

後期は、琴平町にある惣田塚古墳(六世紀後半)が造られています。この古墳は円墳ですが、この当時の特徴である横穴式石室(よこあなしきせきしつ)をもっています。遺物は発掘されていませんが、近くに弥生時代後期の環濠集落とみられる惣田遺跡があることから、この地区は古くから高瀬川を中心とした勢力があったと思われます。

また、6世紀後半に九州北部の豊前のあたりに多い横穴墓(よこあなぼ)が玉川バイパスの上野橋の下の斜面で確認されています。この上野横穴墓は、本格的な調査が行われていないので詳細は不明ですが、一般的には斜面の岩盤などをくりぬき古墳の横穴式石室のようなしっかりした構造をしています。その他の特徴として、その斜面には複数の横穴墓があり横穴墓群となっていることが多いようです。

上野のこの付近は、上野横穴墓に埋葬された首長が代々おさめた土地だったのではないかと想像できます。

また、同じ後期には、すぐ隣の護願寺に前方後円墳の護願寺古墳があり、少し下ると装飾古墳で有名なランドヤ古墳などもあります。奈良時代の街道もこの付近を通過していたといわれていますのでさらに想像がふくらみます。

ご意見や興味のある方は、ぜひご連絡、ご参加ください！ 特定の時代だけでも興味のある方！ 大歓迎です！

(文 高瀬史編修委員会 高田義友 / 資料・協力 日田市文化財保護課 高瀬公民館24-2705)

< 姫塚古墳 >

< 惣田塚古墳 >

< 上野橋 >

